



5歳以上の全てのお子さんへの 新型コロナワクチン接種を推奨します

新型コロナワクチン接種のながれ

- 他の種類のワクチンとは前後2週間以上あける必要があります。
- インフルエンザワクチンと同時接種可能です。(他のワクチンとの同時接種はできません)



ファイザー社製：3週間
モデルナ社製：4週間

5～11歳にはファイザー社製の接種可能

新型コロナワクチン接種の 安全性

5～11歳の子どもの新型コロナワクチンは、12～15歳の子どもや成人よりも
ワクチン接種による全身反応の頻度が低いです。(米国データ)



新型コロナワクチンによる心筋炎の頻度は極めてまれで、多くが軽症です。
新型コロナに罹っても心筋炎になることがあり、その頻度の方が高く、かつ重症です。

新型コロナワクチン接種推奨の理由

「子どもは新型コロナに罹ってもほとんどが軽症・無症状」という新型コロナの流行開始当初と比べて
オミクロン株BA.5の流行(第7波)で子どもの新型コロナの入院が急増し、
基礎疾患がないお子さんでも重症化することがあると分かってきました。

一方で、新潟県内の子どもの入院例を検証したところ、ワクチン未接種のお子さん比べて、
オミクロン株BA.5に感染しても**ワクチン接種で入院のリスクが1/3以下に減少する**と分かりました。

子どものオミクロン株の感染にも入院・重症化予防効果があること、日本でも安全性のデータが集まったことから、
国は5～11歳の子どもにも**努力義務(子どもがワクチン接種を受けるよう保護者が努める)**を適用することになりました。

日本小児科学会の提言でも、健康な子どもへのワクチン接種は
「意義がある」から「推奨します」と、推奨の度合いが強くなりました。

- まだ接種されていないお子さん※への速やかな接種
- 2回目から5か月以上経過しているお子さん※への3回目接種
※すでに感染したお子さんも含みます
- ワクチンについて迷っている方はかかりつけ医との相談 をお勧めします。

現時点でワクチンは**新型コロナ感染の入院や重症化に対する唯一の積極的な予防手段**です。
ご家族でよく話し合い、お子さんが納得した上で接種することをお勧めします。